

小麦品種「ゆきちから」の止葉展開期追肥による子実タンパク質含有率の向上

1 背景・目的

地産地消の取組みとして県内でめん用・パン用のどちらの加工にも向く、小麦「ゆきちから」が栽培されている。現在、大麦用基肥一発肥料で栽培しているが、子実タンパク質含有率が品質の許容範囲に達しないため、子実タンパク質含有率の向上が求められている。そこで、水稻移植栽培の作業と競合しない止葉展開期の追肥の効果について検討する。

2 技術のポイント

- (1) 止葉展開期追肥は子実タンパク質含有率を向上させ、施肥量を増加することでさらに高まる（図1）。また、粒厚は2.8mm以上の比率が増加し、粒揃いが良くなる（図2）。
- (2) 窒素4kg/10aを追肥した区の収量は約560kg/10aとなり、追肥をしない区より16%増収する（図3）。また、大麦用基肥一発肥料に追肥しても倒伏はない（図4）。

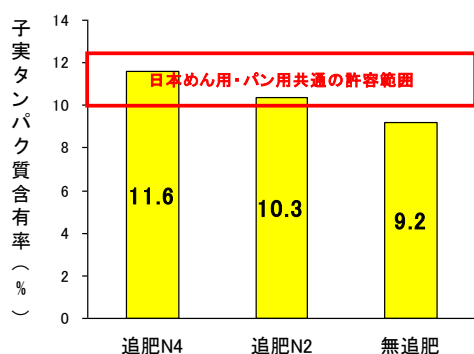


図1 施肥量と子実タンパク質含有率

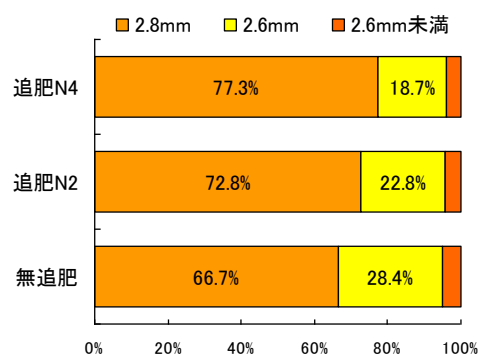


図2 施肥量と粒厚分布割合

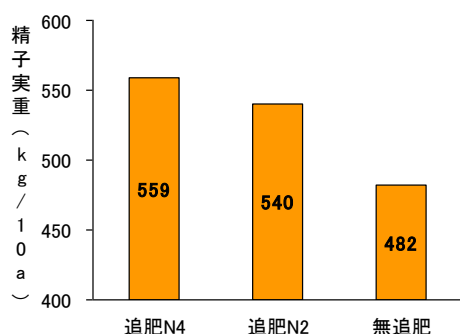


図3 施肥量と収量

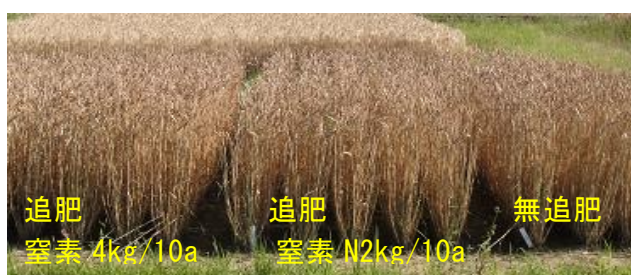


図4 成熟期の草姿

3 成果の活用と留意点

- (1) 高品質・高タンパクの小麦を生産できる。
- (2) 小麦の生育量に応じて倒伏しない程度の施肥量に注意する。

問合先：作物栽培グループ・育種グループ TEL076-257-6911
 担当者：津川香織・廣田実央